



## ほ 乳類 のしっぽはなぜついているの、どんなはたらきをするの

### しっぽの始まりは、魚のおびれ

地球に最初の生き物が現れたのは、およそ35億年前の海の中でした。簡単な体のつくりの生き物から、少しずつ複雑で高度なつくりに進化していきましたが、海でいちばん高度に発達したのが、魚の仲間でした。一部の魚が陸に上がってくらすように進化していき、は虫類が現れました。これは虫類の進化したものから、今のほ乳類が生まれてきたのです。魚は、泳ぐためにおびれが発達しました。このおびれが、ワニなどのは虫類のしっぽに変化し、胸びれなどは、手足に変化してしていきました。

### ほ 乳動物 のしっぽは、こんなに役立つ

ほ乳動物は、ふつう、しっぽをもっています。それぞれの動物の生活に合わせて、しっぽは、形や大きさ、長さ、毛がふさふさしている、先のほうだけ毛があるなど、さまざまに変化していきました。しっぽは、次の例のように、動物にとって役立っています。

チーターは、全速力で走りながら方向を変えるとき、しっぽでバランスをとります。ウシやウマは、うるさいハエや虫を追いはらうのにしっぽを使います。ネズミとかクモザルは、物をつかむのに使います。リスのふさふさしたしっぽは、寒いとき体をくるむふとんがわりになります。ビーバーは、平たいしっぽで水をたたいて仲間に合図をします。

### ひつよう 必要ないものは、なくなっていく

人間やモグラなど、しっぽの使い道がなかった動物は、しっぽが短くなり、やがて退化してなくなってしまうました。人間の赤ちゃんは、お母さんのおなかの中でだんだん人間らしい形に育っていくとき、とちゅうまでしっぽのようなものがあります。でも、生まれてくるころには、なくなっています。(監修 今泉 忠明)

